



お知らせ

- #セミナー 9月9日(土) 草志舎
- #INTO世界大会 9月11日(月)～15日(金)
- #園遊会 at 六甲山荘 9月23日(土・祝)
- #親子草木染教室 10月14日(土) 六甲山荘
- #建物の保存を考える in Tokyo 東京駅と日本銀行本店 11月17日(金)
- #下期セミナー 聖心女子学院とカトリック宝塚教会 12月2日(土)

園遊会 at 六甲山荘 久しぶりの園遊会・山荘のひと時を楽しみましょう!

この秋、六甲山荘で園遊会をひらきます。音楽をたのしみ、お茶を飲み、アート作品を楽しみ、山荘でくつろぎながら秋の一日を過ごしていただく企画です。六甲山荘を多くの人に知ってもらいたい機会です。どうぞお知りあいの方を大勢お誘いくださってご参加ください。お待ちしております。

月日 9月23日(土) 11時～15時

内容 ミニコンサート 11時30分～ 13時30分～

出演 響楽 (ヴァイオリン村瀬響とチェロー楽恒のデュオ)

六甲山荘をテーマにしたアート作品展示

ランチ 石窯ピザ+サンドイッチ (予約者のみ) 800円



数年前の園遊会風景

参加費 会員 1,000円 一般 1,500円 (コーヒーまたは紅茶、ケーキつき)

六甲山荘のアート作品募集

今年の園遊会にはお楽しみがひとつふえます。六甲山荘を表現するアート作品を展示するのです。

あなたの目に映る『六甲山荘』を自由に作品に仕上げてください。

写真、絵画、俳句、華、工芸・思い思いの作品をお披露目しましょう! 今まで気が付かなかった新しい六甲山荘を発見できるかもしれません。すでにお申込みいただいておりますが、まだ展示の余地はあります。皆様のご参加をお待ちしています! 詳細は同封の園遊会の案内チラシあるいはホームページをごらんください。

下期の計画のご案内

*セミナー 2017年度下期のセミナーは次のような見学会を企画しました

★東京駅と日本銀行本店探訪 建物の保存を考える in Tokyo

東京駅と日本銀行本店、どちらも辰野金吾が設計した名建築です。この二つをガイドつきでまわる企画です。

月日 11月17日(金)

集合 午後1時 集合場所 JR東京駅 5,6番線ホーム 有楽町・品川側端

参加費 会員 1,000円 一般 1,500円

定員 20名 (定員になり次第締め切ります)

申込期限 11月5日(日)

詳しくは同封の案内チラシをごらんください。

東京駅→



★小林聖心女子学院とカトリック宝塚教会 ～レーモンドと村野藤吾の作品を訪ねる～

宝塚地区にある二つの名建築を訪問します。

月日 12月2日(土)

ご報告～シンポジウム at ヴォーリズ六甲山荘

開催日：8月8日（火）～9日（水） 六甲山荘

台風5号のおかげで当初の予定を1日短縮して2日間の開催となりました。ワークができなかったのが残念ですが、凝縮した内容となりました。千葉大学から4人、大阪市大から1名、学生会員が1名と学生が6人参加してくれたのもうれいことでした。

笠原一人さん（京都工芸繊維大学）はオランダで行われている大胆な建築保存とリノベーションについて写真を多用して話されました。奥村太朗さん（弁護士）は日本の法制の下で文化遺産を継承する困難と可能性を自らの経験をふまえて語ってくださいました。穎原澄子さん（千葉大学）はナショナル・トラスト運動を思想的背景から振り返り、現代にいたるまで活動をささえている精神について教示されました。

参加者の発表された角拓哉さん（千葉大学が地元と一緒に取り組んでいる今井町の町づくり運動について）、長谷佳奈さん（日本でのナショナル・トラスト運動の今後の課題について）、藤原光博さん（古曳邸の調査について）がそれぞれ力のもった内容で、参加者も引き込まれていました。

スタッフの活躍もすばらしかったです。予算に頭を悩ませつつメニューづくり、買い出し、調理、片付けと大勢の食を一手に引き受けてくれた厨房スタッフ、参加者の送迎に山道を連日上り下りしてくれた車担当スタッフ、当日に早くから駆けつけて厨房を支えてくれたスタッフ、台風のため直前にスケジュール変更という事態にもすばやく対応してくれた皆さんの働きのおかげでシンポジウムは無事に終了しました。



笠原一人氏



奥村太朗氏



穎原澄子氏



角拓哉氏



長谷佳奈氏



藤原光博氏

<参加記> 「いつもでないところへ入り込むことの大切さ」

六甲の山の中を深く分け入り、ふと現れたヴォーリズの六甲山荘。人里離れ、森に囲まれたこの場所は非常に心地よい涼しい空気と北面採光のような柔らかい光、どの窓にもみどりの景色が映り込み、止まない虫の音と鳥のさえずりで包まれていた。一方でエアコンとLED電灯、外を望めば隣家の壁で断熱、遮音仕様のガラス窓に支配された内部空間に閉じこもり暮らす現代。むろん、日常生活の環境が後者なだけに、六甲山荘での宿泊は、五感のフルコースで、心底心地よい感覚を与えてくれました。ヴォーリズの六甲山荘は、現代が発展と思いついてつくりあげてきた快適で便利な暮らし方の裏で失われてきた心身の豊かさをもたらす環境を大いに持ち合わせており、ここに、この山荘を現代に残し使い続ける意義を実感するとともに、アメニティ2000協会の活動に強く共感致しました。

シンポジウムでは、個々に異なる興味・分野の発表で、互いに新しい視点や知識を得られ、それぞれの今後の活動にもっと厚みのでるものになるのではないかと思います。少なくとも私は、初めて外の方へ今井町のまちづくり活動お話しする機会を頂いた中で、外の方の反応や意見は非常に参考になりましたし、一方で少しでも参加者の方に刺激を与えられたのではないかと感じています。

最後になりましたが、アメニティ2000協会の方々には終始素晴らしいおもてなしをしていただいたことに大変感謝しています。本当にありがとうございました。

角拓哉（千葉大学モリス研究室）



<参加記> 「六甲山荘への想いに触れる2日間」

長谷佳奈（千葉大学穎原研究室）

8月8日、9日の一泊二日でヴォーリズの六甲山荘でのアメニティ2000シンポジウムに参加させていただきました。あいにくの台風で1日シンポジウムが短くなったことにより、ワークで行うはずであった小道の整備には携わることが出来ませんでした。大変貴重な体験をさせていただきました。

六甲山荘は学校の宿泊施設として使われていたとはいえ、もとは個人の別荘であったことから、もっとこじんまりとしたものを想像していたため、玄関から入っての空間の広さに驚きました。木目のたくさんあるシックな色の壁や暖かい色の落ち着いた照明、外気が優しく流れ込んでくる開放感はとても居心地が良く、住む人のことを考えて作られていることが体感で

きます。また、隅々まで綺麗に磨かれ、石畳や外壁も補修されることにより今でも生きた建築として大切に守られていること、訪れた人々にとって最高に心地よい環境を提供してくださったことから、アメニティ 2000 協会の方々の強い想いや深い愛を感じさせていただきました。

初日は笠原先生、奥村先生による講演会が行われ、外国ではどのようなリノベーションが行われ、現代を生きる人々と古い建物が共存しているのか、や、日本の法律のなかでナショナルトラストを行っていき難しさについてお話いただきました。海外と比べ、日本ではまだまだナショナルトラストの考え方や存在自体が浸透していないことを改めて教えて頂き、考え直す機会となりました。



2 日目には私をこのシンポジウムに導いてくださった頼原先生にご講演いただき、歴史の側面からナショナルトラストについて考えを深めました。

参加者として自分もナショナルトラストと生産緑地について少し発表をさせていただき、知識も考えも浅く拙い発表となりましたが、皆様の暖かい心遣いに支えられ、良い経験を積むことができました。

本当に皆さん優しさとおもてなしの心が溢れていて美味しい食事や宿泊、準備など2日間大変お世話になり、ありがとうございました。その分の恩返しを今後、世の中、若者にナショナルトラストを広めていくことなどで今回の経験を活かした還元をできたらと思います。本当に貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

<参加記> 「六甲山荘での思い出」

中村文香(千葉大学大学院1年)

今回、アメニティ 2000 のシンポジウムに参加させていただき、ナショナルトラストやアメニティ 2000 の活動について現状の理解を深め、これから文化財保護や自然環境に対してどう進めば良いのか考えるきっかけとなりました。

私は大学院で建築の保全・再生の研究をしていて、これまで様々な状況にある建築物を見てきましたが、保全においてやはり税金や法律が大きな障壁となっていることが多々ありました。しかし、その障壁があるから無理だとあきらめるのではなく、市民が積極的に動き保存活動を行うことにより文化財に対する意識を変え、それらの活動により法律や制度の見直しと考えられる。そのような意味でアメニティ 2000 の方々の活動は文化財保護において非常に重要な役割を担っているのだと感じました。

また、ヴォーリズ六甲山荘に宿泊しご飯を食べるなど実際に生活することでただ見学するのとは違うこの建築の魅力を感じることができたと思います。山荘の配置計画だけでなく、その家にあった家具や照明器具のデザインなど非常に細やかな気配りがなされており、それらは生活する中で多く気付かされました。生きた建築というのはこのことだと感じた2日間でした。

最後になりましたがおいしい食事や興味深いシンポジウム、どれもが素晴らしい経験でこのような機会をいただいたことに感謝しております。アメニティ 2000 の皆様、本当にありがとうございました。

<参加記> 「今夏一番の建築体験」

山下晃弘(大阪市立大学横山俊祐建築計画研究所)

今回のシンポジウムは、修士論文の調査でヴォーリズ六甲山荘を訪れた際にお誘いいただいた事がきっかけで参加しました。もともと私はヴォーリズ建築のファンで、そのヴォーリズ建築の中で寝泊まりし一日を豊かに過ごせるということもあり願ってもない好機でした。

六甲山に登っていくと、真夏でもひんやりとした空気が漂う森の中にその山荘はあります。都会の喧騒を忘れ(携帯も圏外になるので)、朝には大自然の中で鳥たちの鳴き声に囲まれながら目覚めることは言葉にできない快感でした。そんな自然の中でとる食事もまた格別で、テラスの気持ち良さといい、食事の美味しさといい、家に帰ってからは少し寂しくなってしまったほどです。

シンポジウムは、ナショナル・トラストをめぐる最新の情報や、自分ではキャッチしにくい海外の文化財事情など私の今後の研究テーマに大いにヒントになるような内容でした。中でもオランダの文化財事情は印象的で、新旧の融合した建築事例をたくさん教えていただき、一度見に行きたいなと思っています。

またこのシンポジウムでもう一つ感じた特徴は、学生が多く参加されていることです。学生発表でも今井町のまちづくりへ参加されている皆さんの発表があり、普段は他の大学や研究室がどんな事をしているか知る機会は少なく、良い刺激になりました。私たちのような学生世代にも、古いものを長く大切にするような文化財保護やまちづくり活動、ナショナル・トラストの運動がより浸透すれば良いなと改めて実感した瞬間でした。

今年は台風の気まぐれで期間が短縮になり、ワークも省略になってしまったので、それだけが少し残念でしたが、密度の高い2日間となりました。こんな素敵な会にお誘いいただき、心身ともに満たされた思いです。本当にありがとうございました。



<参加記>「文化遺産の再構築」

カルロス・ショネンベルグ (大阪大学・学生会員)

僕の専攻分野は政治経済だが、この夏アメニティ 2000 協会の建築関係のセミナーに参加して得難い経験をした。このセミナーで僕が学んだのは建築の保存、修復、リノベーションについてである。国や地域にとって文化的遺産と見なされている建築や公共空間の修復にかかわる分野だ。建築の世界では「建設」は当たり前の作業だが、「修復」はすでに建設されているものに現代の感性を取り入れるむずかしい作業である。この分野の難しさは、既存の建築物の特徴を守りつつ新しいデザインを取り入れるところにあるし、またもとの建築の形を保存しようとする人々や保存組織の抵抗に対応するところにもある。



京都工業繊維大学の笠原一人教授の話を知ると、今日では文化遺産建造物の修復についてはオランダが先進国であるようだ。様々な名作建築を修復、修繕、改築してあらたな命を吹き込んでいる。昔の、忘れかけていた建造物に斬新なタッチが加えられて、国内ばかりか世界中の注目を集めている。これらの修復されたモニュメント、美術館、教会、僧院や歴史的領域をまわる旅行者も増えているらしい。オランダの修復事業は、すぐれた古いアートに現代建築の表現をミックスするという方向を目指している。

ここで提起されているのは、どこの国でも問題となっていることで、すなわち祖先から受け継いできた建築物を手遅れにならないうちに消滅からどうやって守るかということである。日本では修復という分野はまだ新しい概念で、目的の達成には今後の発展がなくてはならない。日本では文化遺産保護を目的とする組織が頑張っているが、頻発する地震という自然の脅威のため、この分野の研究が十分に進んでいるとはいえない。とはいえ大学では教授や学生たちによるこの分野に焦点をあてた研究がおこなわれている。日本の学会や研究者たちは、彼らが大事に思う文化遺産建築に画期的な対策を講じる方法を見つけるにちがいないと思われる。しかし経済、交易、テクノロジーの分野でみられるように、彼らのめざましい改革技術は建築の保存・修復・リノベーションにとっては破壊的な結果を招くこともあり得る。日本が建築のこの部門で発展するのは時間の問題かもしれない。このシンポジウムに参加して、建築復興の世界について知識を得ることができたのはとてもよかった。充実した体験だった。

ブドウの皮、ヤマゴボウの実を集めてください

10月14日に六甲山荘で行う草木染教室で、染めの材料にブドウの皮を使います。指導者の川上篤子さんからのお願いです。ブドウの皮をいただけませんか。巨峰などの黒系のブドウを食べるとき、湯むきするとききれいにむけます。それを冷凍してついでどきに草志舎、さくら荘、あるいは六甲山荘にお持ちください。またヤマゴボウの熟した実もあればお持ちくださると助かります。



昨年ブドウの皮で染めたハンカチ

(財) 日本ナショナルトラストとの業務提携

日本ナショナルトラストとは以前結んでいた業務提携関係を再提携いたしました。内容は双方のプロパティ、ヴォーリズ六甲山荘と駒井家住宅への入館料の割引です。

駒井家住宅は京都市左京区北白川にあるヴォーリズ建築の個人住宅です。訪問の時はアメニティ 2000 協会の会員証を呈示してください。

また六甲山荘に日本ナショナルトラストの会員が来られたら 500 円の入館料を 400 円にして入っていただきます。



六甲山荘便り

6月、7月の六甲山荘

6月初めには昨年が続いて大阪工業大学工学部建築学科の学生が大勢来られて熱心に説明を聞いていかれました。六甲山荘の見学が課題のレポートにどのように反映されるのか、覗いてみたいですね。

7月は角倉起美さんの陶芸作品展が16日間にわたって開かれました。庭には大きなアジサイのオブジェ、室内にはカラフルな食器や花入れなどならび、楽しい展示会でした。展示中の作品でコーヒーやケーキをいただくこともでき、お客さまは喜んでおられました。



アメニティ・レポートの在庫処分

当協会の活動報告書アメニティ・レポートは2001年から毎年発行しています。数年前までは家庭用プリンターで印刷し、手作業で製本していました。

この度古い年度の在庫を整理することにしました。ご希望の方に1冊300円でお頒けします。ご希望の年度を報せくださればお送りします。

INTO 世界大会に出席します

アメニティ 2000 協会は世界ナショナル・トラスト機構 (International National Trust Organisation) の会員です。9月11日から15日にかけてインドネシアのバリ島で2年に1回の世界大会が開かれます。今回は学生会員のハナ・イスタムさんと清水順子が出席します。

募金のご報告～6月7月

6月、7月に次の方々から募金をいただきました。

ありがとうございました。(敬称略)

<六甲山荘屋根葺替え資金>

《6月7月合計 229,718円 2017年度累計 534,718円》

<一般資金>

《6月7月合計 73,500円 2017年度累計 209,040円》

*文化遺産継承基金

《6月7月合計 303,218円 2017年度累計 743,758円》

自由学園明日館



生徒用椅子